

総合的に見た 間取りのやり方

図・文/本多和夫

配置計画

今回は前回に引き続き間取りの完成する過程を順を追って説明していきます。前回のイメージを形にする所で、矢印になっていった部分 ● 配置計画では方位・道路・近隣について ● 法規制については断面図でボリュームチェックをするための採光斜線・道路斜線・北側斜線 ● 間取りでは設計条件・スタイル・材質・工法・コストなどについて見ていきます。

①方位

敷地形状と方位によって建物の配置を考えます。(イ)南面採光が得られたか (ロ)風の通り道に開口を設けられるか (ハ)庭とのつながりがもてるか (ニ)南面させた部屋 居間・食堂・老人室・主婦室・家事室 (ホ)東面させたい部屋 台所・食堂・主寝室

②道路

接道位置によって玄関・アプローチ・進入路・駐車場などの配置が決ります。●北側道路のときには、駐車場・サービスマヤード(自転車置き場・勝手口)・玄関などがストリートに配置しやすく、合理的なプランをつくりやすい。●南側道路のときは進入路を東西にふることで、南側の庭を客動線から離して確保し、住居部分のプライバシーを守ることが出来ます。また南面した建物の中央に玄関を配し、庭を分断するアプローチを設けてアプローチを庭として扱う例もあります。

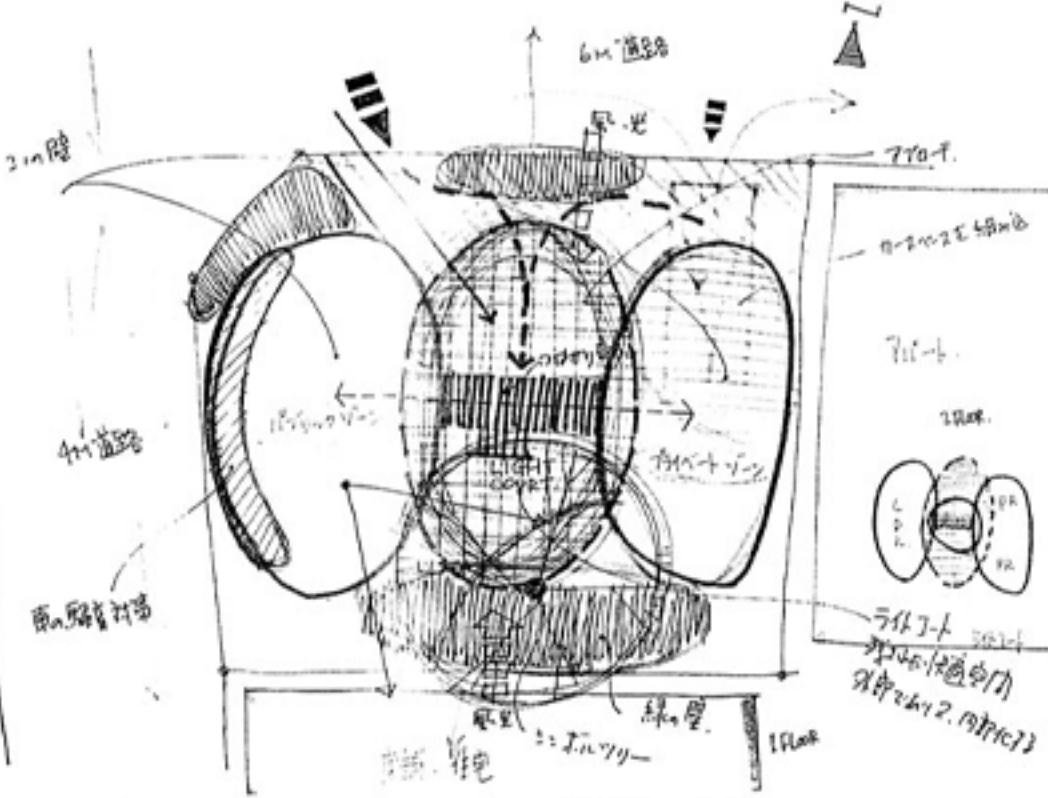
③近隣

敷地の接する隣近所環境を配慮して、両方の間取りをより快適にするためには、

隣家の配置、窓の位置、樹木の形を検討して、自分の敷地の配置や建物の窓の大きさを考えていきます。

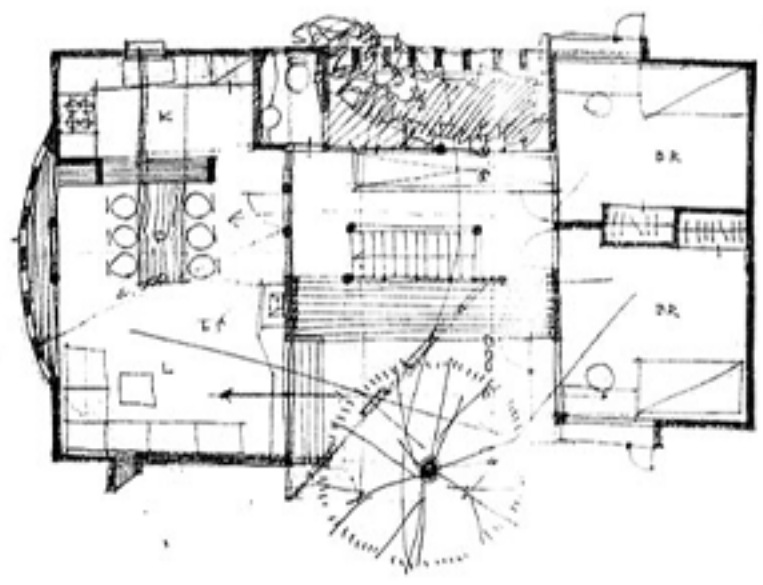
(A)ゾーニング

この例は、市街地の住居地域の中で40坪の敷地です。北側6mと西側4mの道路に接しています。隣家は東側に木造2階建アパート、南側は敷地境界いっぱい木造2階建店舗住宅によって囲まれて

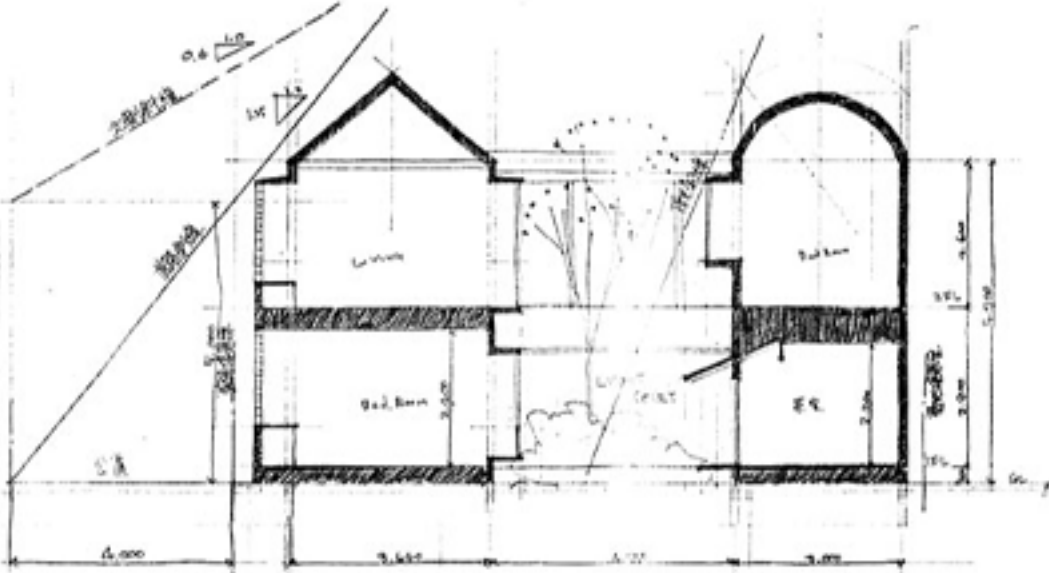


(A) ゾーニング

このように過密した住宅地では、プライバシーを守りながらも、通風や採光を得るための手法として、中庭や、コートハウス、ライトコート等の都市型のスタイルを考えました。敷地中央に採光、通風を得るライトコートを設けて、2つの棟で外部からプライバシーを守りこをゾーンとしてまず敷地の中に入れます。次に玄関、アプローチ、駐車場の位置をこ



(B) 平面スケッチ



▲断面図

▼設計条件調査書

設計条件調査書		所要室の概要	
項目	内容	項目	内容
敷地面積	40坪	居室	3室
用途	住居	キッチン	1室
建築種別	木造	バス	1室
建築時期	新築	トイレ	1室
建築主	個人	洗面	1室
建築地	市街地	玄関	1室
建築費	約1000万円	廊下	1室
建築期	2023年	階段	1室
建築主	個人	その他	1室

間取る

いままで何度か、間取りの第一に考えることはライフスタイルを決めることと書いてきました。まず自分の現在の生活スタイルを見て、これからの生活スタイルを決めていきます。●シンブルライフ ●ス

ティルライフ ●ウッドテイルライフなどがあります。

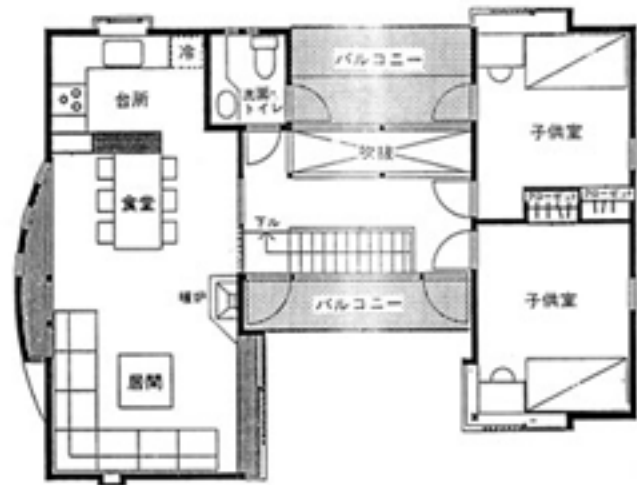
また、流行にとらわれず ●和風の伝統に寛ぎを感じ現代生活にとり入れたい。●建築などどうでもよく、樹木に隠れて個性を主張しない ●静かに音楽を聞き暖炉の火を見ながらブランデーでも傾ける ●機能本位で生活する機械でよい ●日々の生活が高揚する創造的住まいがよい ●何もすることがないときに居たい

いと思う場所がある家 ●気持ちの良くなる家……など。

生活スタイルが決まったら次は広さです。ここは1月号14月号で学んだことを思いだしてください。ゾーニングの中に希望部屋数のつながりを組み合わせます。どうしても希望は大きくなりがちですが、この希望と法的制限、建設コスト、工法、工期等を考えて、基本設計案としてまとめていきます。

④ 平面スケッチ

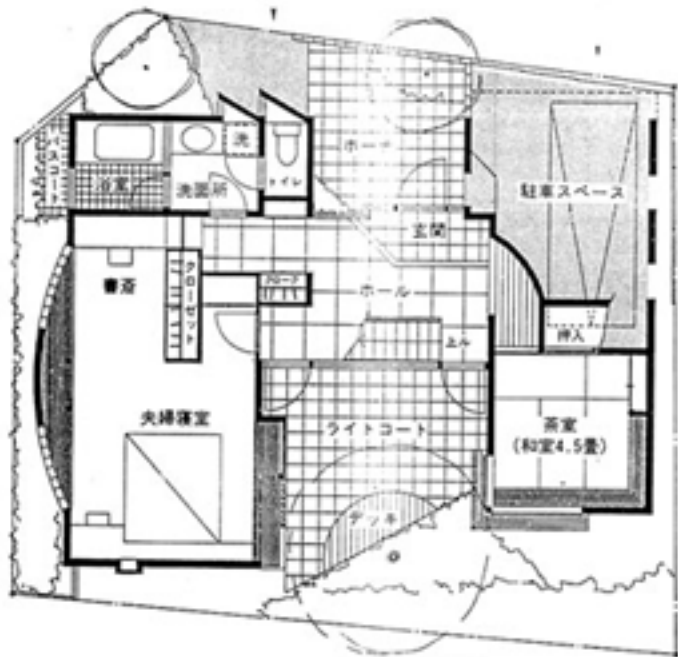
ここでは家族4人の住宅プランを考え
てあります。日照を得るため一・二階を
逆転させ、ここでは二階に中央のライ
トコートに面して左側に居間、食堂、台所
を設けています。カウンターキッチンに
してワンルーム化した明るく広い空間に
しました。右側はプライベートルームと
して個室を配しました。一階はライトコ
ートと玄関ホール、廊下の動線部分が透
けて一体化するように、ガラス張りの壁
面としています。南北の境界に緑の壁を
設けて、うるおいと、住宅のプライバシー
を確保することをねらいました。



良くも悪くもするものなので、日頃注意
していろいろな良い建築体験を重ねると
良いでしょう。

基本プランの決定

以上見てきた、ライフスタイルの決定
↓ 間取り ↓ 材質の選定などのバランスが
とれていることが、構造上、コスト上に
もバランスがとれていることになりました。
また土地の有効利用と近隣との調和や共
存、速度に外部とのつながりを持ち良好
な住宅地域となることも考えていくこと
が重要です。以上簡単にまとめましたが
通風・採光・換気がとれ、快適な間取り
になるように何度も考えて楽しく明るい
すまいを創ってください。



1階平面図

● 建築用語辞典
「アメニティ」

快適性・感じの良さなど、環境
を評価する言葉の訳で、環境庁で
は「快適な環境」として使います。
それは、単に景観上の快適さだけ
ではなく、生活に結びついた環境
全般がよりよい市民生活を営む
のに好ましいことを意味しています。
日本では、戦後の経済成長期に行
なわれた猛スピードの開発が、自
然や古い町並みを壊してきたこと
を反省しはじめた一九七〇年頃、
この思想は一般化してきました。

経済的効率だけを求め、歴史的
伝統的な環境や建物を壊してゆく
ことは、私達の心の中にある原風
景（ふるさと）を失わせます。そ
れはまた、ひとりの人間が成長し、
変化しながらも基本的には同一で
連続しているという感覚にアイデ
ンティティを脅かすものです。

今日では、生活に質的な豊かさ
や潤いを求める社会的な要求を背
景とし、アメニティも「保存」か
ら「創造」へ進展してきています。

住宅は、個人生活の基盤であり、
個人のものであります。しかし、自分
だけの生き方や趣味だけで環境を
考えずには、周囲の調和は壊
れます。ひいてはその地域全体の
雰囲気や落ち着かなく、環境の
悪化という形で自分に返ってきま
す。周辺との調和を考慮すること
で自分たちの住む場所への愛着心
を高め、それから身近にアメニテ
ィを実現してゆくこととなります。